

平成24年度 第8回 経営協議会議事要録

日 時：平成25年2月15日（金）15時00分から17時10分

場 所：如水会館3階「富士の間」

出席者：【委員】山内学長

天野委員、北尾委員、木川委員、中島委員、安田委員

大芝委員、落合委員、小川委員、山部委員、糟谷委員、林委員

【陪席者】渡邊監事、二村監事、高橋副学長

議事に先立ち、学長より前回（平成24年度第6回及び第7回）の議事要録について確認が行われた。

審議事項1. 退職手当の支給水準引下げについて

山内学長及び人事労務課長より、退職手当の支給水準引下げについて、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。なお、施行日に関しては、役員会において了承された日とすることとされた。

審議事項2. 平成25年度夏季一斉休業について

人事労務課長より、平成25年度夏季一斉休業について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、審議の過程において、以下のような質疑応答があった。

- 夏季休業日が増えることにより、常勤職員や契約職員の超過勤務手当単価が上がり、働こうと思っても働けないパートタイム職員については、給料が減額になるというのはやむを得ないことか。
- 夏季休業の取扱いを有給休暇とすることも考えられるが、今回は休日扱いとしたため、このような差が生じた。これは、あくまでも仮定上の計算であり、常勤職員とパートタイム職員の勤務日数は同一である。

報告事項1. 平成25年度一橋大学予算の内示について

小川理事及び財務部長より、平成25年度一橋大学予算の内示について、資料4に基づき報告があった。

なお、審議の過程において、以下のような質疑応答があった。

- 復興関連事業分のうち、「災害時に避難場所となる柔剣道場の耐震化改築工事」は改築工事だという説明であったが、耐震工事ではないのか。
- 耐震性をもたせるという意味合いでの改築工事である。
- 給与の減額改定は、パートタイム職員も同様の取り扱いとなるのか。
- 常勤職員のみ減額改定することとしている。
- 災害時の避難場所として予算配分されているが、災害時のシミュレーションや防災計画などはどうなっているのか。
- 一昨年から昨年にかけて、防災倉庫の整備を行うとともに、災害時用の備

蓄などの防災対応を進めており、例えば国立キャンパス内の既存施設の収容力や備蓄品の所要量等のシミュレーションを行い、3日間程度の食糧の備蓄等を行うこととしたところである。また、職員を中心として事務局の課ごとの役割分担を作成するとともに、授業時間中に被災した場合の避難経路や帰宅困難者の一時受け入れなどの対応マニュアルも整備している。

さらに、一昨年、昨年と防災訓練を実施したが、防災訓練を実施した結果、一斉放送設備の必要性等も見えてきたので、来年度はもう少し本格的に実施したいと考えている。

- 自治体との協議は進めているのか。
- 大学だけでは対応できないため、自治体との協議は必要不可欠であり、国立市役所と協議を進めているところである。

報告事項2. 資金運用方針に基づく債権の購入について

小川理事より、資金運用方針に基づく債権の購入について、資料5に基づき報告があった。

報告事項3. 格付け（レビュー結果）について

小川理事より、格付け（レビュー結果）について、資料6に基づき報告があった。なお、委員より、以下のような質問があった。

- 格付けの目的は何か。
- 様々な角度から評価する必要がある、財政基盤が強固であるという評価が得られること、また、この格付レビューは海外にも公表されるため宣伝効果も期待できると考えている。
- 他大学でも格付け審査しているのか。
- 九州大学がAAAに格付けされているが、私立大学ではAAAに格付けされているところはないと聞いている。

その他. 一橋大学グローバル人材育成プログラムについて

大芝理事及び落合理事より、一橋大学グローバル人材育成プログラムの概要等について資料に基づき説明があった。

なお、委員より、以下のような質問及び意見があった。

- まずは全一橋大学生の学力の底上げを行なってはどうか。更に、学部卒業後に一度社会に出て付加価値をつけた上で、ビジネススクールに再入学して更にスキルアップを図るなどの学生へのサポート体制を構築し、学生を長期間フォローできるPDCAを確立する必要があるのではないか。
- このプログラムは最初のステップとして位置づけている。商学部、経済学部から開始し、法学部、社会学部にも浸透させ、全学的レベルでの底上げにつなげることを目指している。
- サラブレットを作るという以前に、学力の底上げを行う意見に賛成であり、このトライアルは非常によいと思うが、グローバルリーダーとして15名を選出する際に、学業優秀者だけでよいのかという懸念がある。他者への影響力、人を助ける力、芯の強さという点も加味してはどうか。スポーツやボランティアなど、将来的にリーダー足りうる人物とはなにか、という視点も考慮いただきたい。
- ごもつともであり、商・経済でも全学部学生の底上げにつなげていくことをめざす。また、受講者を選定する際には総合的な評価を行うようにしたい。

- 本学の特徴として、学生が進学時に学部を選ぶよりも一橋大学を選んで進学してくるということがあるので、法学部及び社会学部にも、本プログラムが適用されるよう制度を広げるべきではないか。また、本プログラムは6年間予算措置されるが、その後維持・運営していくためには、学生側にも相応の負担をさせることも必要ではないか。
- 4学部全体で申請したものは採択されなかったため、やむなく商学部と経済学部から開始することとなったというのが実際のところ。当然、全学部・全学生に広げていくべきものと考えている。そのために、英語スキル科目の全学必修化など、全学的基盤づくりも進めている。6年後には人件費予算の配分方法を見直し、本事業を継続できるような予算配分を考えている。
- 日本語や日本文化などに裏打ちされた日本人としてのグローバルリーダーを育成するという観点が欠けているのではないか。
- 本プログラムを修了後3～4年経た卒業生が、就業時間後に後輩に講話を行うというような、大学を中心とした広義の生涯学習が重要であり、これが人脈形成につながるのではないか。
- この場でいただいたアドバイスを活用して参りたい。今後とも、ご意見をいただけることを期待しています。

以 上